



沖縄県議会議員 崎山 嗣幸  
**かけはし通信**

2017/6 NO.113号

沖縄県那覇市泉崎1-2-3県議会(503)

TEL098-866-2702 Fax098-866-2706

**お知らせ**

6月定例県議会6/20(火)~7/14(金) 港湾議会8/29(火)~8/31(水)

ついに空手会館が豊見城市にオープンした。世界で活躍する空手家の演武は迫力満点で、思わず固唾を飲んだ。左から宮城一郎、次呂久成嵩、仲宗根悟ら同僚県議らと、(2017年3月会館内)



空手会館オープンで  
同僚県議と出席

**復興途上の  
熊本を視察**



熊本地震から1年、復興の取り組みを視察した。津曲所長の案内で、宮城一郎議員と熊本城に入ったが、あまりの決壊のすごさに衝撃を受けた。復旧の長期化が予想されるなど、自然市街対策の重要性を痛感した。

(2017年4月熊本城で)

好調な観光の中、海開きに出席



那覇港管理組合議長として波の上ビーチの海開きに出席。肌寒さも感じたが沖縄観光の絶好調ぶりに関係者も意気盛ん。久高那覇市長ら関係者とともに。

2017年4月(波の上)

石垣・宮古をミサイル基地かしてはならない

社民・社大・結連の  
会派9人が視察



国が先島防衛を目的に自衛隊配備を進める、石垣、宮古島市を会派で視察した。観光の島、平和の島をミサイル基地化し、標的にさらされる事があってはならない。社民・社大・結連の会派9名が参加した。

(2017年5月石垣の予定地)



知事の多良間訪問に同行

翁長知事が多良間村を訪問した。私も同行し、空路や産業等、要望・課題を県議会に反映させる事にした。「15の春」島を出た長男の嫁も同島出身。教育や医療の大切さを痛感した。

2016年11月(多良間空港)

聖火誘致に全力疾走



記者席

○…県議会代表質問で、2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火リレーの県内誘致について質問した崎山嗣幸氏(社民・社大・結)。1964年の東京五輪で沖縄を起点に始まった聖火リレーで、沖縄水産高陸上部から選抜され、那覇市内を聖火ランナーと伴走した。「再び沖縄から東京へと、大きく盛り上がる気運醸成に火を付けたい」と意気込む。今は走る体力はないというが、県内誘致の火付け役にはなりたい様子。

2017/3/14 琉球新報掲載



# 22万トン級大型クルーズ船バースの早期整備を



那覇港港湾管理組合議長として、クルーズ船バースのさらなる整備を要請 (2017/6)

## 観光など県経済に効果大

クルーズ観光が大きな伸びを見せている沖縄。崎山嗣幸議員が議長を務める那覇港管理組合議会は、去る6月、翁長知事に那覇港の22万トン級クルーズ船バースの早急な整備を要請しました。

県の入域観光客数は過去最高となっており、特に大型クルーズ船の寄港は27年の115回、28年193回、29年は225回が見込まれ、観光客数はますます増加すると思われます。那覇港港湾管理組合議会では、世界最大の22万トン級の大型クルーズ船の寄港を目指し、バースの整備計画を全会一致で可決、崎山議長は「クルーズ観光振興は県経済にも大きな効果をもたらすもの」として、知事のほか沖縄総合事務局長にも要請しています。

## 翁長県政と与党の連携密に

県議会の与党3会派は、翁長知事ら県三役と政策課題について認識を共有する「政治戦略プロジェクトチーム（PT）」を発足しました。PTの座長は崎山議員が務めます。最大懸案の辺野古新基地問題をはじめ大型MICE施設建設など、基地問題や経済政策を含めた諸課題をテーマとするほか、政治課題の協議も視野に入れる見通しです。

### 政治協議も視野に 崎山議員が座長に

PTは、県議会会派の社民・社大・結から3人、おきなわと共産からそれぞれ2人の計7人で構成されます。座長となった崎山議員は「県三役との連携をさらに深めるためPTを立ち上げた。県政と与党は政策全てに一致する訳ではないが、そうした違いを放置するのではなく、話し合う事が重要だ」と、その意義を説明しています。

## 県議会与党が政策PT発足

## 近況報告

### 竹富島リゾート開発許可問題で視察 (2017/6)



国立公園であり国の重要無形文化財にも指定されている竹富島に、リゾート開発問題が起る反対運動が起り、土木環境委員会で陳情し、会派で現地を視察した。

### 米軍流弾事件・嘉手納飛行場パラシュート降下訓練への抗議 (2017/5)



SACO 合意や住民無視の米軍の流弾事件、嘉手納飛行場へのパラシュート降下訓練に対し、危険極まりなく基地負担の増大を防衛局に抗議。

### 土木環境常任委員会で県の「蝶」制定を質す (2017/7)



チョウ150種が生息し、生物多様性に富む沖縄。オオゴマダラなど県の「蝶」として制定し、蝶王国を観光にも役立てたら、と質問した。

2018年

# 辺野古の 埋立承認撤回・阻止を

社民・社大・結会派



崎山議員

新基地建設を造らせない県民大会壇上の社民・社大・結会派の議員

与党第1党として

知事を支える



翁長知事

2018年が明け、今年も県政は激動の一年が予想されます。与党第1会派「社民・社大・結」会派へのご支援よろしく御願ひ致します。県政の大きな課題となっている辺野古新基地問題。安倍政権は、先の総選挙で再び示された民意を一顧だにせず、護岸の本格工事を進めています。翁長知事や名護市長は、あらゆる権限を行使し抵抗していますが、政府は強引に法律を解釈し、依然として強行する姿勢です。

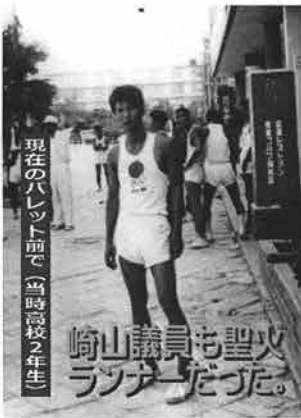
翁長知事は工事差し止め訴訟を提起しながら、様々な法的根拠を検討し、

世論形成の高まりを見ながら辺野古撤回の意思を固めているようです。県政の闘いへ県民の大きな支援が必要です。

私たち社民・社大・結会派は、与党第1党として県民の先頭に立ち、翁長知事を支えていく決意です。



現地座り込みに参加



現在のハレット前で(当時高校2年生)

崎山議員も聖火ランナーだった。

## 世界にアピールする絶好の機会

## 20年東京オリンピック 聖火リレー



## 再び沖縄から

9月議会  
発言

1964年の東京オリンピックの聖火は大陸を渡り、国内の出発点は、米軍統治下の沖縄からでした。沖縄本島内を多くの若者が走り抜き、県民は日本の一員であることを確認、歓喜に沸きました。当時高校2年生だった崎山議員も、区間ランナーとして走り、その感動を覚えています。

崎山議員は、20年のオリンピック、パラリンピックは沖縄が日本復帰を果たした現実を、聖火リレーを通して国民、世界にアピールする絶好の機会だとして、再び沖縄を出発地とするよう、県の取り組みを求めました。

県は実行委員会体制を確立し、積極的に誘致に取り組んでいくと、答弁しました。



公文書館資料

太田主席室に届いた聖火(1964年)

オスプレイ配備  
ヘリパッド建設

# 強行の結果 相次ぐ怖れていた事故



高江、安部、伊計島に不時着、大破炎上も

変わらぬ県民無視の政府



昨年10月の東村高江の不時着事故



伊計島の農道へ不時着(17年2月)



名護市安部に墜落大破(16年12月)

オスプレイが  
一晩で2つの事故

この1年余り間に米軍機事故が相次ぎました。16年12月に名護市安部の海岸、17年1月伊計島の農道、17年10月東村高江の民間地域にヘリが不時着(大破、炎上)しました。

いずれの事故現場も6カ所のヘリパッド建設の結果であり、その後も訓練は激化、事故発生は予想されていた。「次は何処に墜落か」との不安や怒る住民をよそに、国は県民無視同様の対応どころか、辺野古新基地も強行しています。

民間地域高江へ不時着炎上した事故で現地へ直行し、地主の西銘さん、前大宜味村長の島袋義久さんから事故の様子を聞いた。



地主の西銘さん

前大宜味村長の島袋さん

辺野古新基地の建設が強行されているが、大浦湾では県の自然環境保護指針のランク1にも指定されている絶滅危惧種「オキナワハマサンゴ」や「アオサンゴ群落」が発見されている。特に「ハナサンゴ」は14群体が見つかったが、13群体が死滅し1群体しか残っていないという。

防衛局はサンゴ73,000群体を移植対象としているが、そのサンゴの分布と移植先、時期、期間を考えると環境保全は不可能である。国は速やかに工事を止めるべきだ。



辺野古の海の貴重サンゴ  
命の海を壊すな。

9月議会  
発言

辺野古貴重サンゴを  
破壊するな!

名護市高江の事故について現場近くまで行き、山田聡名護署長の説明を受けた。



伊計島でイモ畑を延焼された上江田さん(崎山さんの高校同期)は米軍の無法を許すなと話した。



県議会軍特委で伊計島の現地調査

# 国連本部・カナダ視察 軍事力で制圧する政治を改めるべき



国連本部前の嶋山議員（ニューヨーク）

嶋山議員は17年度海外視察派遣団の一員として、昨年7月から8月にかけてニューヨークやカナダを視察。在ニューヨーク総領事館を表敬した際、アメリカの事情の説明を受けました。

トランプ政権の支持率は37%と下降しており、政策運営は不安定化している。また日本は中国に次ぎ2番目の貿易相手国となっている。国連の会議場も視察し、国連が世界平和と軍縮に果たす役割は大きく、世界が軍事力で制圧する政治を改めさせ、核廃絶、軍縮を求める役割を発揮することを痛感。沖縄の基地が人権、生命、環境を犠牲にしている今、国連の役割も期待したいものです。



県議会視察団一行（在ニューヨーク総領事館）

## 苦難を乗り越え、たくましく カナダ 活躍する県人会

バンクーバー  
県人会と交流

カナダのバンクーバーを訪れた嶋山議員は、バンクーバー沖縄県人会と交流しました。

夢を抱きカナダに渡った県人は、第二次大戦中、カナダ国民でありながら強制収容され、土地や住宅など、財産全てを没収されました。バンクーバーの自宅へ戻ることも許されず、ロッキー山脈の東側に移住を余儀なくされた歴史を学ばされました。その後、市民権の回復、個人保障が実施され、苦難の中、夢と希望を持ってたくましく生きてこれ、現在活躍を続けています。



苦難を乗り越え、たくましく活躍してきた県人会の皆さんと



## 那覇港管理組合議会 クルーズ船に体験乗船 バス拡充や高い満足度の提供で意見交換



体験乗船するクルーズ船をバックに、基隆港で。

クルーズ船の那覇港への寄港の増加によって沖縄観光、ひいては沖縄経済への大きな好影響が期待される中、嶋山議員を議長とする那覇港港湾管理組合議会は、昨年11月、台湾の高雄港TIPC（台湾港務株式会社）郭添貴会長と物流の意見交換を行いました。さらに嶋山議長ら管理組合議会議員、組合職員総勢17人が、大型クルーズ船（コスタ・フォーチュナ・10万トン）に体験乗船して、同船の総支配人とバスの拡充や、高い満足度の提供へ尽力することなど、貴重な意見交換を行いました。



コスタ・フォーチュナ号の総支配人と意見交換する嶋山議長ら管理組合議会のメンバー（船内）



体験乗船した船内にて撮影



リスボン（ポルトガル）市庁舎で、担当者から同市の事情説明を受けた。

県議会の「土木環境常任委員会」は、昨年10月30日から11月6日まで、スペイン・ポルトガルの交通、文化政策、都市整備などの視察をしました。外国の状況を見聞することで、沖縄の諸課題と議員の政策に資する目的を持っています。アントニオ・ガウディの未完の建物や国立自然史博物館なども見学しました。



フランシスコ・ザビエルが種子島に漂着した大航海時代のモニュメントの前で。

## 県議会 土木環境 常任委員会

スペイン、ポルトガルを視察  
交通・文化政策、都市整備などを学ぶ

## 全日本会員組合、民間船員の戦没記録 「海なお深く」を知事へ寄贈



知事室にて

全日本海員組合の政治参与である崎山議員。このほど、去る大戦で民間船舶撃沈で5万人余の船員の戦没記録が書籍「海なお深く」として出版され、松浦副委員長らが来県、県民にも広く知って欲しいと、崎山議員の案内で知事へ寄贈しました。戦争当時徴用された船員は14、15歳の少年達が多く、その命が戦争で絶たれました。海員組合は、海の平和と安全を願う立場から発刊しています。



## 近況報告

## 学生と基地問題

まず沖縄の歴史や差別、抑圧を理解することから

### 介護形態が若者に移行している

## 高齢者介護の変容を学ぶ

高齢化社会は県にとっても重要課題。中央大学と那覇市職員退職者会は同大学の天田城介教授を招き「高齢者介護の変容を学ぶ」講演会を行いました。

教授は、介護形態が若者に移行しており、若者の失業・所得・安定雇用の問題解決が重要だ。40代の天田教授も祖母の介護を通して現在の職業選択になったと話していた。

崎山議員も約50人の参加者と共に、高齢者介護の現状を、県議会の議論に反映させると話した。



講演会参加者のみなさん。那覇市職員厚生会館

去る8月、崎山議員と早稲田大学雄弁会、山中尚人君ら9人と沖縄の基地問題、日本の安全保障の意見交換をしました。学生らは沖縄への米軍基地の集中、事件、事故等には激しい怒りを持っていました。しかし一様に基地の全面撤去の意見はありませんでした。

崎山議員は基地被害と事件事故の実態、差別と抑圧にあえぐ県民の現状を、まず理解することから論議したら、日本の安全保障はわかりやすいのではないかと述べました。

去る大戦で悲惨な体験をした県民は、憲法9条の形骸化、改憲に不安と反対の気持ちが根強い。安全保障のために基地を認め、軍事力に頼る考え方は誤りではないか、と力説しました。



県議会会派室にて